

## 平成 28 年度 第 1 回（相談支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 28 年 7 月 29 日（金） 13：30～15：30

2. 開催場所：八女市役所立花支所市民センター201 会議室

3. 参加者（所属のみ）

陽だまりの里、相談支援センターほっぷ、ゆうゆう、蓮の実団地よろず屋、蓮の実園ゆるっと、相談事業所ねんりん、悠、ココ kara、金太郎、広川町、八女市、リーベル

4. 実施内容

○講義：『発達障害者の方への関わりについて。相談支援専門員として、どのような視点が  
必要か?』～発達障害者支援センターあおぞらとの連携、活用法について～

○講師 福岡県発達障害者支援センターあおぞら 地域支援マネージャー 松尾伸一 氏

①福岡県発達障害者支援センターあおぞらの概要と業務内容について

担当エリアは筑紫地区、八女地区、久留米地区、山門地区、朝倉地区、糸島地区。

発達障害者センターの事業として以下の 3 種の支援を行う。

- ◆直接支援：発達障害の診断のある本人や家族からの相談を受ける。
- ◆間接支援：発達障害の診断のある人や家族を支援している人の相談を受ける。
- ◆啓蒙支援：発達障害の正しい知識を知っていただく為の研修会の開催、外部からの依頼を受けた研修講師など。

地域相談・支援強化事業として、困難ケースの対応に関する支援、関係機関とそのスタッフに対する研修、地域で発達障害を支援する体制づくりのサポート、県との協働で研修を開催。

②支援の実際あおぞらでの実際の支援や対応例について。

・相談者の話を聞く時にポイントを確認しながら聞く⇒『ひとりで遊んでいることが多かった』

・なぜ一人で遊んでいたのでしょうか？  
⇒『カッとなり トラブルになったこともあった』

・トラブルになった時の対処法を持っていたか？困った時どうしていたか？

・相談対応の視点として困り感や不安の原因を一緒に探る。面接時間やテーマを明示、伝える情報を多くし過ぎない。感覚過敏（洋服のタグ、服の素材、音など）がある人もいる等々。

・家族支援の視点：小さい時にどのように関わって来られたか、それぞれの時期に、支援機関等にどうつながって来たか。子育てについて、頑張ってきたんですね…など、ねぎらいの言葉も交えながら…。

○相談の入口について

信用してもらえる相手になることが大事。よい関係をつくろうという思いから「肯定的な態度をとろうとするよりは、肯定/否定という評価軸は入れず、本人なりの行為・理由を「承認する」という姿勢が重要。

○本人なりの理由



独自のルールがそれぞれあることが多く、生活上に潜むそのルールの把握が本人を知る第一歩。本人ルールを本人に教えてもらうという姿勢が大事。

○何を行うことが支援になるのか

本人なりの適応を支援する。診断だけでは適応技術は手に入らない。

○紹介された本

『のびた、ジャイアン症候群』：両者とも ADHD と診断されているが、それぞれ特徴が違う。同じ診断名であった場合、診断名に関連する特徴はそれぞれあるがひとりひとり特性は違うので、ひとりひとりに合った作戦や計画を立てていくことが大事。

